



釧路工業高等専門学校創造工学科教授(エレクトロニクスコース電気工学分野) 小松 正明

私は、2010年9月に、思わず時間の流れが逆流する思いでした。また、白樺の林に霧が立ち込め、カッ

JAXAでの経験、アメリカNASAでの駐在員経験、釧路高専での経験を元に、この文化欄では3回シリーズで、釧路高専の国際交流、釧路高専の魅力、北海道・釧路の魅力、日本の宇宙開発などについて持論を展開させて頂きます。

釧路に単身赴任した当時の強烈な印象は、湿地帯が無限に広がり、牧草地に牛や馬が草を食む風景が全く本州の風景と異なり、1997年から家族で過ごしたフロリダ、オランダの風景と酷似していることだ、

「国際交流から宇宙へ～高専の魅力」



2017年、タイ、キングモンクット工科大学にて(左から筆者、岸前校長、学長代行、副学長、国際部スタッフ)

JAXAから釧路高専への転身

国が釧路泥炭地(湿原)で交流プログラムについてお話しします。現在、釧路高専ではフィンランドのトゥルク市にあるトゥルク応用科学大学と、またタイ・バン

今年も4月16日にフィンランドの大学から4名の学生が来釧、交換留学生として3ヶ月の予定で研究やプロジェクトに励みます。また、留学の成果が実感できた、6月にはタイから5名の留学生が来釧し、1ヶ月滞在します。この時はマレーシア、モンゴル等の国費留学生(在校生)と合わせ

輩であることを母校からの便りで知るところとなり、着任当事、不思議な縁に思

また、タイの大学とのこれまでの交流ではこの5年間で大きく変化していることが実感できました。昨年、タイの大学にこれまでの交流活動評価の打ち合わせに出かけましたが、5年前の姿、日本のODAで成長した

また、タイの大学とのこれまでの交流ではこの5年間で大きく変化していることが実感できました。昨年、タイの大学にこれまでの交流活動評価の打ち合わせに出かけましたが、5年前の姿、日本のODAで成長した

また、タイの大学とのこれまでの交流ではこの5年間で大きく変化していることが実感できました。昨年、タイの大学にこれまでの交流活動評価の打ち合わせに出かけましたが、5年前の姿、日本のODAで成長した